

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
病理学概論		BNSB2L08	20201	1後	1(30)	必修
担当教員	伊東 恭子、穴戸 由紀子、藤本 崇宏、丹藤 創					
概要	<p>病理学は、ギリシャ語のpathos(苦難)とlogos(学問)が語源となっている。すなわち、疾病/疾患の本態:病気になる(発症)まで成り立ち、病気のしくみ(病態)、病気の成り行き(予後)を明らかにする学問で、患者の疾患を正しく認識した上で医療に携わる看護学の基盤をなすものである。具体的には、病理学総論では、先天異常と遺伝子異常、代謝障害、循環障害、炎症と免疫、膠原病、感染症、腫瘍、老化と死など、病態を理解するための基盤となるメカニズムの大筋を理解する。病理学各論では、その基盤に立脚して、特に看護学分野において重要な疾患を臓器別に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ※シラバスは変更になる場合があります。</p>					
学修目標	<p>総論では、分子・細胞・組織のレベルから人体の正常な構造・機能を学び、それをもとにどのような経過を伴って異常や障害、疾病へと破綻をおこすかについて、その発生機序、病態生理を学ぶことを目的とする。各論では、病因に基づく疾患の分類、各々の病態における組織学的変化、ヒトの主要な疾患のコンセプトを理解する。病理学は形態学を主体とするが、分子生物学的解析を駆使した病態の検討に関しても知識を習得する。それら知識の有機的な融合により、患者の身体に生じている様々な変化を病理学的見地に立って理解し、実践に役立てることができる能力を育成することを学修目標とする。</p>					
DPとの対応	知をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		
1	病理学でまなぶこと			使用テキスト、参考図書、配付資料		
2	先天異常と遺伝子異常			使用テキスト、参考図書、配付資料		
3	代謝障害			使用テキスト、参考図書、配付資料		
4	循環障害			使用テキスト、参考図書、配付資料		
5	炎症と免疫、膠原病			使用テキスト、参考図書、配付資料		
6	感染症			使用テキスト、参考図書、配付資料		
7	腫瘍			使用テキスト、参考図書、配付資料		
8	老化と死			使用テキスト、参考図書、配付資料		
9	循環器系の疾患			使用テキスト、参考図書、配付資料		
10	血液・造血器系の疾患			使用テキスト、参考図書、配付資料		
11	呼吸器系の疾患			使用テキスト、参考図書、配付資料		
12	消化器系の疾患			使用テキスト、参考図書、配付資料		
13	腎・泌尿器・生殖器系および乳腺の疾患			使用テキスト、参考図書、配付資料		
14	内分泌系の疾患			使用テキスト、参考図書、配付資料		
15	脳・神経・筋肉系の疾患			使用テキスト、参考図書、配付資料		
使用テキスト	病理学 疾病のなりたちと回復の促進[1](第5版)					
参考図書	随時紹介する					
成績評価基準	講義の出席、定期試験における評価					